保護者各位

子どもと健康

令和５年１０月（第２８９号）
子どもの健康を考える会

澄みきった青空にさわやかな風が心地よい季節となりました。子どもたちは外で元気いっぱい走ったり、散歩などを楽しんでいます。今回は『**視力の発達**』について、青山眼科クリニック　青山　陽先生にご指導をいただきました。

✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿

『視力の発達』

生まれたばかりの赤ちゃんの目の構造や機能は、大きさが小さいくらいで、大人と同じくほぼ完成されています。しかし赤ちゃんの視力は、目の前の物が動くのがわかる程度です。生後１ヶ月頃から発達しだし、生後３ヶ月で 0.01 程度、６ヶ月で 0.06 程度、１歳で 0.2、２歳で 0.5、３歳で 0.6～1.0、6～8 歳で視力の発達は完了し大人と同じくらいになります。

視力は、何かを見たとき、ピントの合った像が網膜から脳の神経に送られ、刺激が加わることで発達します。この発達の時期に、遠視や乱視が原因で正常な刺激が網膜から脳に伝わらなかったり、左右の目の度の違いや斜視（片方の目の向きがまっすぐ向いていない）があったりして片方の目ばかり使っていると、あまり使わない方の目の発達が遅れてしまうこともあります。そうなるとメガネをかけてもよく見えない弱視といわれる状態になります。
このような場合、視力の発達を促すために、メガネをかけて網膜にピントを合わせることが大切です。きれいな画像を映してあげることにより脳が発達して視力が上がっていきます。視力の発達する時期は限られているため、弱視の治療は早めに開始することが大切です。

３歳児健診で異状が指摘された場合はもちろんですが、「目の向きがおかしい」「テレビに近づいて見る」「目を細めて見る」「顔を傾けて見る」「まぶしがる」など、気になることがありましたら受診をためらわずに眼科に相談してください。

青山眼科クリニック　青山　陽

✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿＊✿

岐阜市役所　子ども保育課　　ＴＥＬ：２１４－７８２５（ダイヤルイン）
ＦＡＸ：２６２－１１２１
Ｅメール：hoiku@city.gifu.gifu.jp